

1 題材 「勇気のかたち～墨でところを描く～」

2 指導観

- 「21世紀型スキル」の一つに挙げられる創造性は、「新しさ（新奇性）」と「適切さ（価値や有用性）」の二つの基準から定義される。それは拡散的思考によって自由かつ無数に生み出されたアイデアを、意図的、論理的に収束させることを繰り返すことによって育まれるとされている。

本題材は、生徒自身がこれまでに経験した「勇気」の物語を墨で表現する活動を通して、墨の濃淡やにじみ、かすれなどの豊かな表情や実体のない自身の心情をかたちにする造形表現のおもしろさを味わわせることをねらいとする。学習内容としては、絵画の感性的見方と知識的見方、墨と水による濃淡表現、筆勢によるにじみやかすれ表現、アクション・ペインティングの表現方法、抽象表現の多様な見方、トリミングによる画面構成とその効果、墨と筆の表現の多様性などがある。これらの学習を通して生徒は、墨による描画の特徴から感じ取ったことを基に主題を生み出したり、「勇気」のイメージから想像したことを基に主題を生み出したりして、表現方法を工夫し、独自の世界を生み出すことができるようになる。第1学年の発達段階では、必ずしも最初に主題を生み出して構想に向かうとは限らない。そのため、様々な造形実験（試作）を経て、直感やひらめきを生かしながら主題を生み出したり更新したりできる本題材は、大変意義深い。

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本題材の指導にあたっては、生徒の頭の中にある経験を基にしたイメージを言語化させたり、身体をつかって表現した墨の濃淡や描画方法から膨らんだイメージを言語化させたりすることにより、思考と試行を繰り返しながら生徒一人一人の主題に迫らせたい。そのためにまず、様々な絵画表現から表現の多様性を味わわせ、本題材の学習課題をつかませる。ここでは、作品の感性的な見方を捉えさせるために、参考作品を観て感じた印象を問う。その際、様々な修飾語のリストを提示し、選んだ修飾語を基に説明するよう指示する。次に、墨で多様な表現を試させる。ここでは、墨による多様な表現を味わわせるために、試しで描いた作品から感じた印象を言葉で記録させ、タイトルをつけて班員と交流させる場を設定する。その際、試作品は後の作品制作の素材や資料として活用させるため、造形ファイルに随時保存させる。さらに、「勇気のかたち」を墨で表現させる。ここでは、生徒自身が「勇気」を自覚した際のところの在り様を客観的に捉えさせるために、「勇気を出したり、絞り出したりした経験」を問い、言葉で具体的に書き出すように促す。最後に、完成した作品を鑑賞させる。ここでは、探究のプロセスの重要性に気付かせるために、造形ファイルと作品とを合わせて鑑賞するよう伝える。

3 目標

- 墨の濃淡や筆の筆勢などを生かし、墨による表現の効果を捉えるとともに、墨の技法などを意図的に工夫して表すことができる。
- 墨による表現の特性やところの在り様からイメージしたかたちをもとに、筆使いや水加減などの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりすることができる。
- 自己の内面について多面的に捉え、墨による表現の特性を生かして表現することに興味をもち、意欲的に制作に取り組もうとする。

4 計 画 (8 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて	評価規準
一	3	<p>1 様々な絵画表現から、表現の多様性を味わう。</p> <p>(1) 様々な絵画作品を鑑賞し、作者の心象風景に思いをめぐらせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画を構成する諸要素 ・感性的見方と知識的見方 ・描画方法の多様性 <p>(2) ～ (3) 墨で多様な表現を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆の基本的な使い方 ・墨と水による濃淡表現 ・筆勢によるにじみやかすれ表現 ・アクション・ペインティングによる表現方法 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の多様な鑑賞法を見出させるために、印象派の作品や表現主義の作品などを提示し何が描かれているか問う。 ○ 作品を感性的に捉えさせるために、参考作品の印象を問う。その際、修飾語のリストを提示し、選んだ言葉で説明するよう指示する。 ○ 墨による多様な表現を味わわせるために、試しで描いた作品から感じた印象を言葉で記録しタイトルをつけさせ、班で交流する場を設定する。 ○ 試しに描いた作品を後の制作に活かさせるために、感じた印象などに分けてファイルに整理するよう促す。 	<p>態：多様な絵画作品から、絵画を構成する諸要素を見出し、作者の制作意図や心象風景を感じ取ろうとしている。</p> <p>知：筆の筆勢や墨の特性を生かして、様々な表現方法で線を描くことができる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【学習課題】 あなたの中にある「勇気」を墨で表現しなさい。</p> </div>				
二	4	<p>2 「勇気」をテーマに、構想を練り、墨で表現する。</p> <p>(1) 作品の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージの立て方 ・抽象表現の多様な見方 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒自身の「勇気」を感じた際のこころの在り様を客観的に捉えさせるために、「勇気を出したり、絞り出したりした経験」を問い、言葉で具体的に記録するよう促す。 	<p>思：課題を象徴する場面を具体的に言語化し、形や色で置き換えることができる。</p>
	本時	<p>(2) ～ (4) 構想を基に墨で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品主題と墨や筆による多様な表現との関連性 ・トリミングによる印象の違い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 墨による多様な表現を追求しやすくさせるために、ローラーや刷毛などを準備し、任意で使用できるよう画材コーナーを設ける。 ○ 墨の表現（にじみやかすれ）の部分に着目させるために、デスクルを用いたトリミングを試させ、印象の違いを問う。 	<p>思：作品主題を表現するために、筆勢や墨の濃淡などの特性を生かして画面を構成することができる。</p>
三	1	<p>3 完成した作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品主題の多様性 ・墨と筆の表現の多様性 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本題材の本質が、作品だけではなく、探究のプロセスにあることに着目させるために造形ファイルと作品とを合わせて鑑賞するよう伝える。 	<p>態：創造的なものの見方、考え方に自分なりの価値を見だし、今後に生かそうとしている。</p>

5 本時 第4校時計画 第二次の(2) 美術室にて

(1) 主眼

○ 表現と構想の組み立てを繰り返す活動を通して、色や形、構成などを工夫して主題に近づけることができる。

(2) 準備

- ①参考作品 ②造形ファイル(自己評価表, 構想シート) ③描画材(刷毛, 葛筆など)
④描画紙(半紙, 画仙紙, 上質紙, ケント紙など) ⑤デスクル

(3) 過程

学習活動・内容	準備	手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
<p>1 学習課題と本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作者の心象表現  <p style="text-align: center;">【参考作品】</p>	<p>① ②</p>	<p>○ 抽象表現から作者の表現意図を考察させるために、参考作品を提示して作者の表現意図を問う。その後、見方の幅を広げるために「どうやって描いたのだろうか」と問い直す。</p> <p>○ 実体のない「勇気」を描こうとする際、「形」に着目させるために、参考作品が「四角形ではいけないのか」と問う。</p> <p>○ 構想シートが創作の手がかりとなることをつかませるために、「色」「匂い」「動き」「音」などについて、生徒の構想シートを踏まえて問い、表現と構想が行き来する思考の流れを図示する。</p>	<p>一斉</p>	<p>10</p>
<p>めあて 「勇気」のかたちを具現化しよう。</p> <p>2 表現→構想→表現のサイクルを繰り返し、作品を具現化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 墨と水による濃淡 筆勢による形 にじみ、かすれ表現による表情や質感 余白や疎密による画面構成 	<p>③ ④ ⑤</p>	<p>○ 墨による多様な表現を追求しやすくさせるために、刷毛や葛筆などの描画材や多様な描画紙を準備し、任意で使用できるような画材コーナーを設ける。</p> <p>○ 墨の表現(にじみやかすれ)の部分に着目させたり、余白や疎密の効果を実感させたりするために、デスクルを用いたトリミングを試させ、印象の違いを問う。</p> <p>○ 構想を基に表現する際、線描に頼った表現に終始した生徒がいた場合、墨絵の特性を活かした表現を促すために、生徒の試作品に着目させながら、線だけでなく点や面などでの描画や描画方法の可能性について言及する。</p>	<p>個 ↓ 小集団 ↓ 個</p>	<p>30</p>
<p>3 本時の活動を振り返り、次時以降の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現方法の多様性 作品制作の見通し 		<p>○ 多様な表現方法を共有するために、生徒作品を示し、制作意図と表現方法を問う。</p> <p>○ 作品主題の追究のためには、試作と検討を繰り返し、粘り強く取り組む姿勢が必要であることを捉えさせるために、生徒の作品を提示して、本時で描き上げた作品の枚数と主題の深まりを紹介し、価値づける。</p> <p>◇ 多様な表現方法を試し、言葉で表現したりすることができる。また、作品主題へと近づけるための具体的な技法と、結果について、造形要素を踏まえて振り返ることができる。</p> <p style="text-align: right;"><造形ファイル分析></p>	<p>一斉 ↓ 個</p>	<p>10</p>